

焼津海道 港・まち磨き構想

— 焼津駅周辺・焼津漁港周辺拠点整備基本構想 —

令和元年7月

静岡県焼津市

目次

I	はじめに	1
	1) 構想の目的	1
	2) 構想の目標年度	1
	3) 構想の対象範囲	2
II	地区の将来構想	3
	1) 地区の将来イメージと基本方針	3
	(1) 地区の将来イメージ	3
	(2) 基本方針	5
	2) 地区の将来構造の考え方	6
	(1) エリアの考え方	7
	(2) コア施設の考え方	9
	(3) 周遊ネットワークの考え方	11
III	地区整備活用構想	13
	1) 地区整備活用構想の考え方	13
	2) エリアの整備活用構想	14
	焼津駅前エリア	14
	駅前通り商店街エリア	17
	市役所庁舎・商店街エリア	20
	内港エリア	24
	浜通り周辺エリア	27
	新港エリア	30
	3) 周遊ネットワークの整備活用施策	33
IV	本構想の実現に向けて	35

I はじめに

1) 構想の目的

焼津市は、全国有数の遠洋・沖合漁業の基地として知られる焼津漁港を有し、本市の中心市街地であるJR焼津駅から焼津漁港に至る地区（以下「本地区」という。）は、基幹産業である水産業の要となる焼津漁港の発展とともに整備され、栄えてきました。

現在、本地区では人口減少と少子高齢化に伴う活力の低下とにぎわいの喪失への対応が喫緊の課題となっており、にぎわいと活力の再生を図るため、「焼津市中心市街地活性化基本計画」をはじめ、「焼津駅南まちづくりプラン」「焼津市新庁舎建設基本計画」及び「ターントクルこども館整備基本構想」などの個別計画による各種事業を実施しています。あわせて、焼津漁港（焼津地区・新港地区）では、漁港機能の一層の拡充を推進することにより、遠洋漁業の基地として持続的な繁栄を目指しています。

本構想は、本地区の将来イメージを明確にして、具体的な整備活用方針を定めるとともに個別計画を関連付け、相互に連携させることにより相乗効果を生み出し、地区全体のさらなる魅力向上につなげ、第6次総合計画に掲げる「焼津に住み続けたい、住んでみたい、行ってみたい」と思えるまちづくりと、焼津市都市計画マスタープランで定める「焼津地域まちづくり構想」の実現を図ることを目的に策定するものです。

2) 構想の目標年度

本構想は、中長期的な将来イメージを示すものであることから、実現に要する期間等を勘案し、概ね20年後である、2039年を目標年度とします。

3) 構想の対象範囲

本構想の対象範囲は、厳密な区域設定は行わないものの、焼津ダイヤモンド構想や焼津市都市計画マスタープラン等で市のにぎわいの中心拠点として位置づけるJR焼津駅周辺をはじめ、交流拠点として位置づける焼津漁港（焼津地区・新港地区）、具体的な事業計画が位置づけられている中心市街地活性化基本計画区域及び新庁舎建設が進められる焼津市役所周辺部等を概ね包括するJR焼津駅から焼津漁港までの範囲（下図）とします。

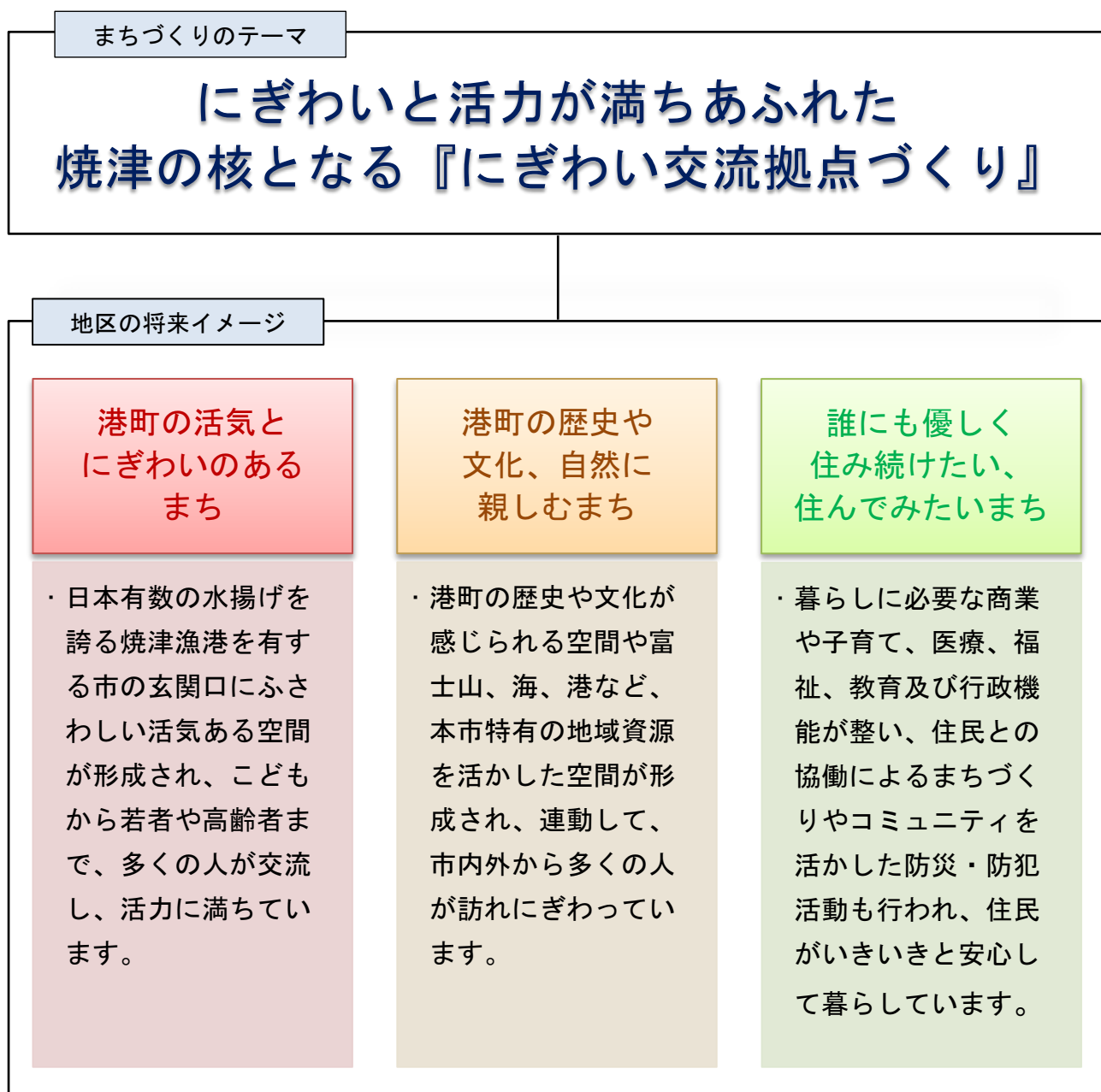


Ⅱ 地区の将来構想

1) 地区の将来イメージと基本方針

(1) 地区の将来イメージ

本地区の2039年度を目標としたまちづくりのテーマと将来イメージを次のように掲げます。



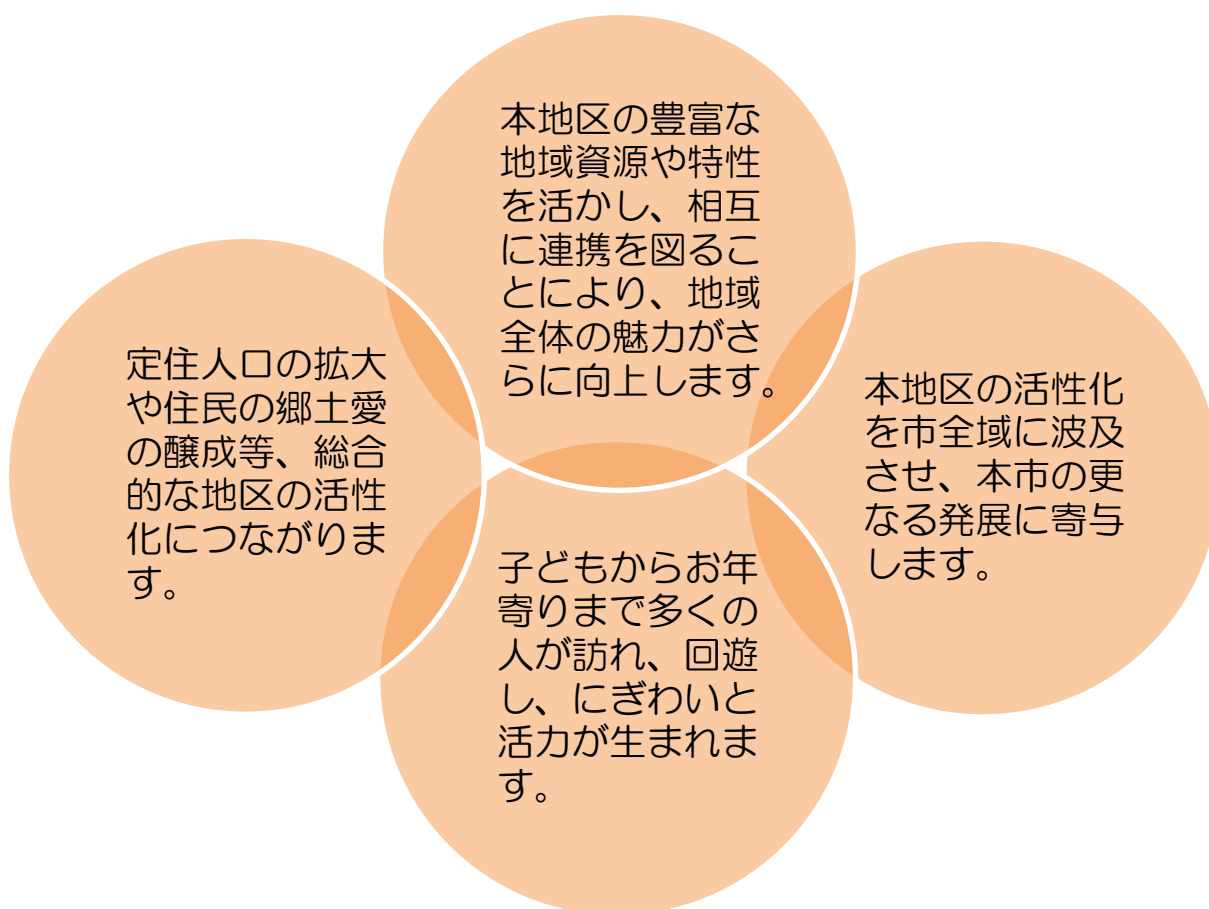
この将来イメージを実現するための基本方針を、次のように整理します。

① 地区の魅力と機能を活かしたエリア形成とエリアマネジメントの推進

② 楽しみながら周遊、休息できるまちづくりの推進

③ 安心・安全で快適な生活環境の創造

これらの基本方針に基づき、将来イメージを実現することで、以下の効果が期待されます。



(2) 基本方針

将来イメージを実現するための基本方針の内容は、次のとおりです。

① 地区の魅力と機能を活かしたエリア形成とエリアマネジメントの推進

◆にぎわいと活力あるエリア形成◆

本地区を土地利用の状況や担うべき機能及び役割等から6つの「エリア」に区分し、新たな施設整備や既存ストックの活用、及び歴史・文化資源の保全・活用等により、各エリアの一層の魅力向上と機能強化を図り、にぎわいと活力あるエリア形成を図ります。

◆協働のまちづくりの推進◆

市民、事業者、行政が協働して、多様な交流の創出と維持・継続に向けた仕組みづくりや活動を展開し、持続可能なまちづくりを推進します。

② 楽しみながら周遊、休息できるまちづくりの推進

◆エリアを繋ぐネットワークの形成◆

エリアにおける事業効果の一層の向上を図るため、エリアを繋ぐ歩行者動線の確保や交通手段の整備等によるネットワークの形成を図り「コンパクト+ネットワーク」のまちづくりを進めます。

◆移動しやすい交通環境の推進◆

ネットワークにおいては、市民や観光客等が楽しみながら地区内を周遊、休息できまた、自動運転EVバス等を導入するなど、誰もが多様な交通手段で地区内を移動しやすい環境づくりによる、魅力的なまちづくりを進めます。

③ 安心・安全で快適な生活環境の創造

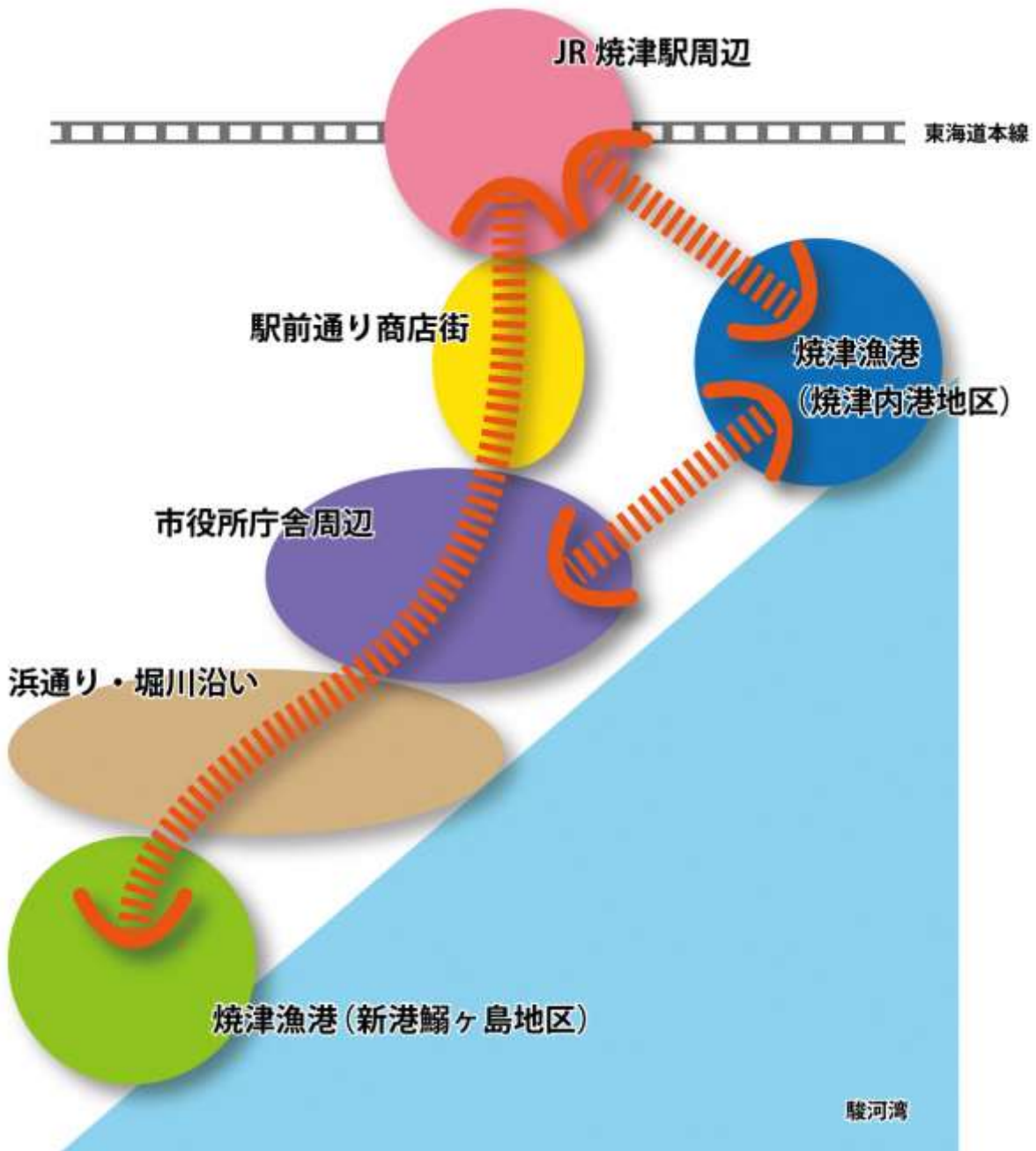
◆暮らしに便利な商業機能等の整備◆

地区全体に、居住や商業・業務、福祉・子育て等の暮らしに必要な機能をコンパクトに誘導・配置し、各機能を連携させます。

◆道路・河川・海辺空間の整備と景観形成◆

道路空間や河川・水路の沿道、ポケットパーク等をはじめ、海辺のレクリエーション空間等の整備を進めるとともに、各エリアそれぞれの特性を活かした良好な景観形成や緑化などを推進し、安心・安全で潤いある環境を創出し、人々が「住みたい」「住み続けたい」と思えるような、快適なワンランク上の生活環境を創造します。

<地区の将来イメージの概念図>



2) 地区の将来構造の考え方

将来イメージ実現のための基本方針に基づき、6つのエリアと8つのコア施設、及び道路・河川の周遊ネットワークを配置し、エリア、コア施設、ネットワークを相互連携させることにより、一層の魅力向上と機能強化を図り、地区全体のにぎわいと活力を創出します。

(1) エリアの考え方

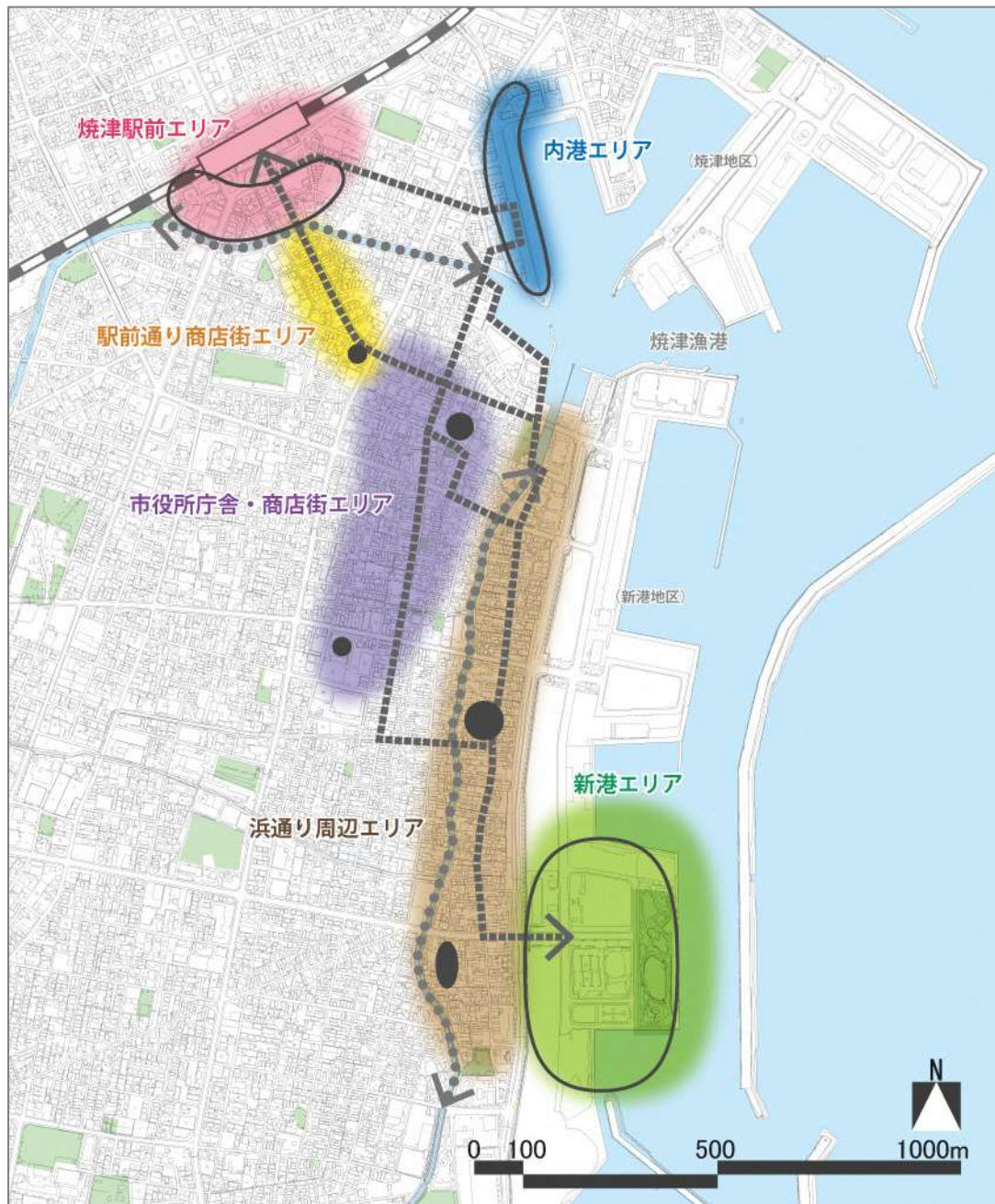
本市の上位計画、関連計画、個別プロジェクトの概要、さらに、本地区の地域特性等を鑑みて、地区の将来イメージの実現のために、以下のような6つの「エリア」を配置し、魅力的なエリア形成を進めていきます。

■エリア一覧

エリア名称	概要・将来イメージ
焼津駅前 エリア	<ul style="list-style-type: none"> 本市の玄関口となる主要な交通結節点であり、多くの市民や観光客、来訪者等が多様な目的で往来する区域である。 市の玄関口に相応しいシンボル性と利便性を兼ね備えるとともに、多様な人々が暮らし、集い、交流し、にぎわいの創出を目指すエリア。
駅前通り 商店街 エリア	<ul style="list-style-type: none"> 小石川以南の駅前通り商店街周辺であり、JR焼津駅と市役所や焼津漁港（新港）を結ぶ主動線の役割とにぎわいの中心を担う区域である。 空き店舗等の既存ストックを活かし、(仮称) やいづフードパークとして「食」を活かした誘客を図るとともに、ターントクルこども館の整備と活用により、市民や観光客など多様な人々の交流の創出を目指すエリア。
市役所庁舎 ・商店街 エリア	<ul style="list-style-type: none"> 焼津市役所本庁舎やアトレ焼津等の行政機能と商店が集積する区域であり、本地区内の中心部に位置する。 防災機能と行政サービス機能及び市民が集える機能を備えた市役所新庁舎を核としつつ、商業機能の維持を図り、市民の交流とにぎわいの創出を目指すエリア。
内港 エリア	<ul style="list-style-type: none"> 焼津漁港の焼津内港地区周辺であり、市街地と近接し、JR焼津駅からのアクセスが良い区域である。 港町の風情ある景観や漁業・水産業関連施設、水産資源等を活かし、水産業の振興とともに観光交流の活性化を目指すエリア。
浜通り周辺 エリア	<ul style="list-style-type: none"> 焼津の水産業発祥の地であり、水産業の歴史や文化が感じられ、一部に歴史的文化的な建造物が残る地域である。 焼津の漁業・水産加工業の発展と歴史を伝える風情あるまち並みが残る浜通りと堀川（黒石川雨水幹線）沿いの景観を保全・活用し、歴史文化の継承と合わせて、交流人口の拡大を目指すエリア。
新港 エリア	<ul style="list-style-type: none"> 「開かれた漁港」として、市民に親しまれる憩いの場の創出を目指して整備された親水広場をはじめ、アクアスやいづやうみえ～る焼津等の魅力的な施設があり、周辺未利用地の効果的な活用により、多様な交流を生み出すことが期待できる区域である。 富士山や駿河湾の眺望、海辺の魅力、さらに既存施設や広大な空間を活かし、(仮称) やいづベイサイドパークとして新たな焼津の観光交流拠点の構築を目指すエリア。

□本構想では、焼津漁港（焼津地区・新港地区）内の内港エリアと新港エリアを水産業の振興とともに市民の憩いや観光交流の促進を図るエリアとして位置づけておりますが、内港及び新港エリア以外の区域についても、漁港の地域振興基盤としての可能性を活かし、にぎわい・交流を創出するまちづくりとの連携を図りながら水産文化都市焼津の発展に寄与していくものとなります。

<エリア配置図>



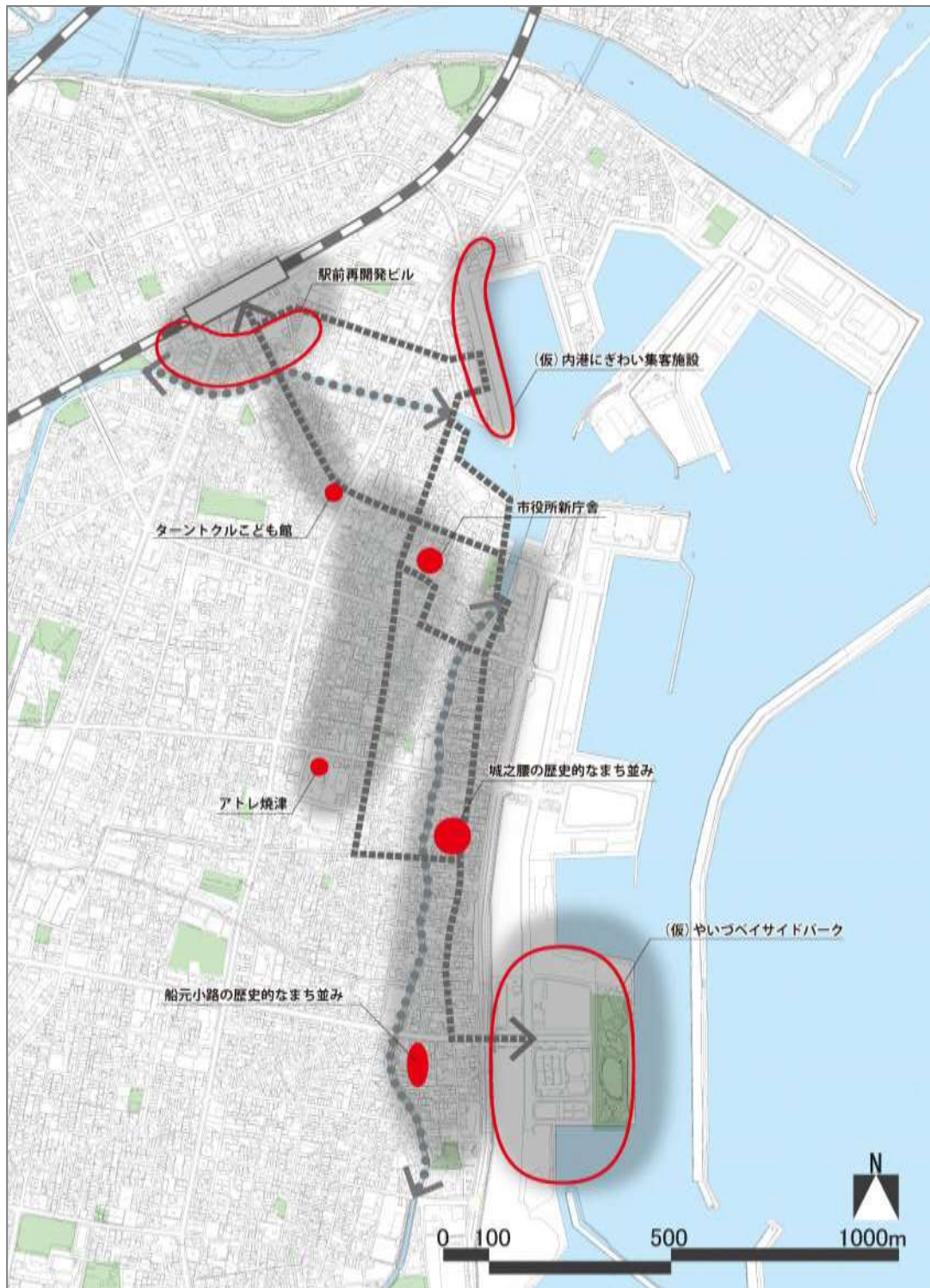
(2) コア施設の考え方

現在事業中、または計画中の施設で、エリアの機能や役割を高めるもの、あるいは市民や地区住民の生活環境の向上に寄与するものを、本地区の将来イメージを実現するための「コア施設」として位置づけ、計画的かつ円滑な事業推進を図ります。

■エリア別コア施設一覧

エリア名称	コア施設	概要・将来イメージ
焼津駅前 エリア	駅前再開発ビル	・ J R 焼津駅南口駅前広場に隣接する街区の市街地再開発事業等により、商業施設や住宅等を一体的に整備し、J R 焼津駅前のにぎわいの創出を図る。
駅前通り 商店街 エリア	ターントクル こども館	・ 乳幼児から高校生までが集い・遊び・学ぶことができ、幅広い世代が交流できる子育て支援の拠点施設として、「おもちゃ美術館」「こども図書館」等を整備する。
市役所庁舎 ・商店街 エリア	市役所新庁舎	・ 防災機能の向上をはじめ、市民協働の促進、市民サービスの向上、及び新たなまちづくりにつながる施設として、「市民の安全と安心を守り、人と環境に優しく、協働の拠点として市民に親しまれる庁舎」を整備する。
	アトレ焼津	・ 市役所新庁舎整備に伴うリニューアルにより、子育て相談機能の充実を図る。
内港 エリア	(仮)内港にぎわい 集客施設	・ 港町らしい風景を活かした観光や食を主体とした施設等を整備し、J R 焼津駅前と市役所周辺との回遊性を確保し、にぎわいの創出を図る。
浜通り周辺 エリア	城之腰の 歴史的なまち並み	・ 焼津水産翁の一人、服部安次郎の生家（服部家住宅）の保全・改修を進めるとともに、周囲の歴史的建造物等と一体的に、歴史と文化を活かした交流拠点として活用する。
	船元小路の 歴史的なまち並み	・ 歴史と文化が感じられる建築物が連なる船元小路では、建築物の形態意匠や色彩等の誘導や修景等により、まち並み景観の保全と向上を図り、交流等に活用する。
新港 エリア	(仮)やいづ ベイサイドパーク	・ 遊覧船の発着所、飲食店や物販店舗、富士山等を眺める展望タワー、産業展示館、スポーツ広場等、観光交流の活性化のための施設を一体的に整備し、新港鰯ヶ島地区の「おもてなし拠点」としてのにぎわい創出を図る。

<コア施設位置図>



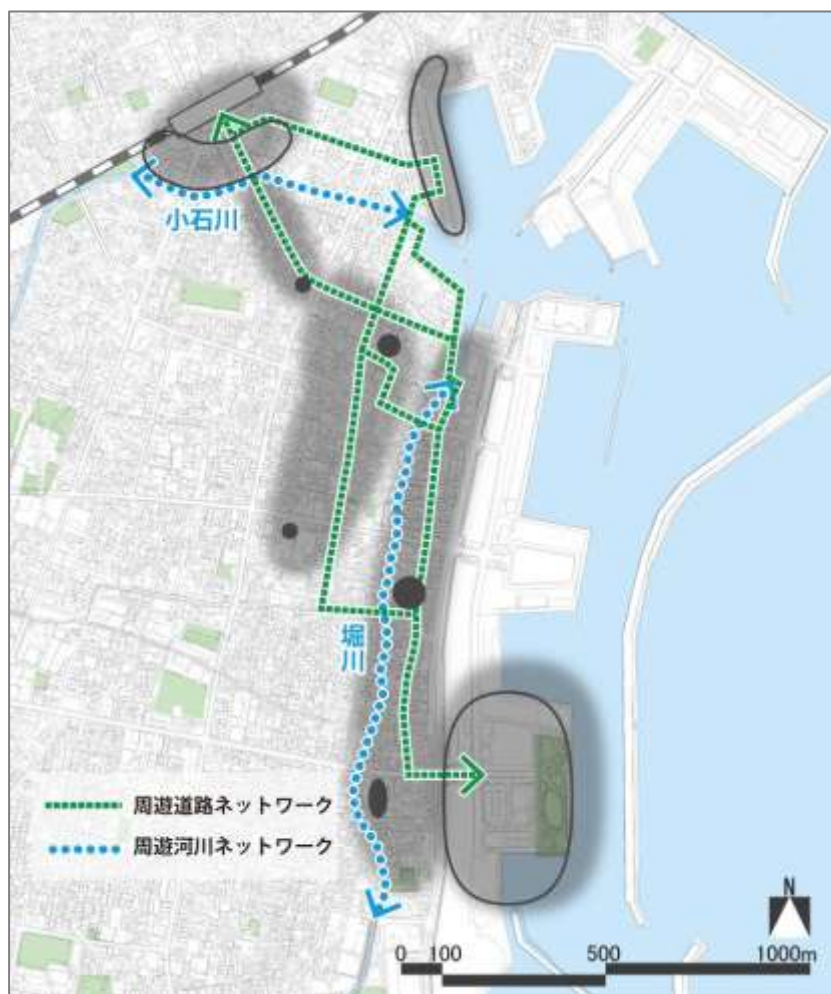
(3) 周遊ネットワークの考え方

地区内の周遊を促し、歩いて楽しいまちづくりを進めるため、あるいはエリア間やコア施設間の連携強化を図り、魅力的かつ一体的な地区づくりを進めるために、歩行者周遊ネットワークを設定し、必要な整備を進めます。

■周遊ネットワーク一覧

名称	概要・将来イメージ
周遊道路ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・全エリアを繋ぐ歩行者動線であり、コア施設とその周辺の商店街や漁港、浜通りのまち並みを周遊する、歩いて楽しい道路ネットワークを整備することにより、にぎわいを地区全体に波及させる。 ・舗装の改修、防護柵等の道路施設の意匠改善、沿道への案内サインの整備、ベンチの設置等を進める。
周遊河川ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・小石川と堀川（黒石川雨水幹線）沿いの歩行者動線であり、川辺や川沿いのまち並みを眺めながら、周遊道路ネットワークと連絡して、地区内の周遊性の向上を図る動線。 ・遊歩道整備、舗装の改修、防護柵や橋梁等の景観的改善、川沿いへの案内サインの整備、ベンチの設置等を進める。

<周遊ネットワーク図>



<地区整備方針図>



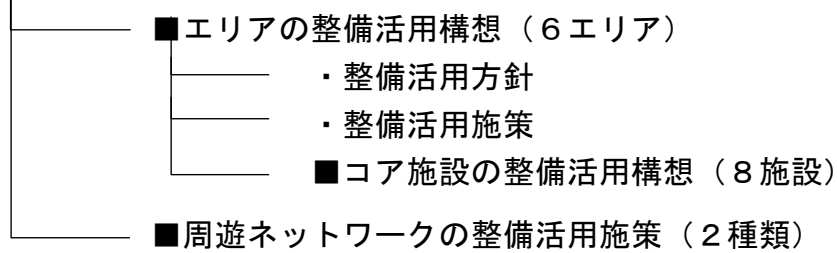
Ⅲ 地区整備活用構想

1) 地区整備活用構想の考え方

地区の将来構造の考え方に基づき、各エリアの整備活用方針と具体的な整備活用施策を示すとともに、エリア形成と密接に関係するコア施設については、整備活用構想を示します。

また、周遊ネットワークについては、地区全体における整備活用施策を示します。

地区整備活用構想



2) エリアの整備活用構想

焼津駅前エリア

(1) 整備活用方針

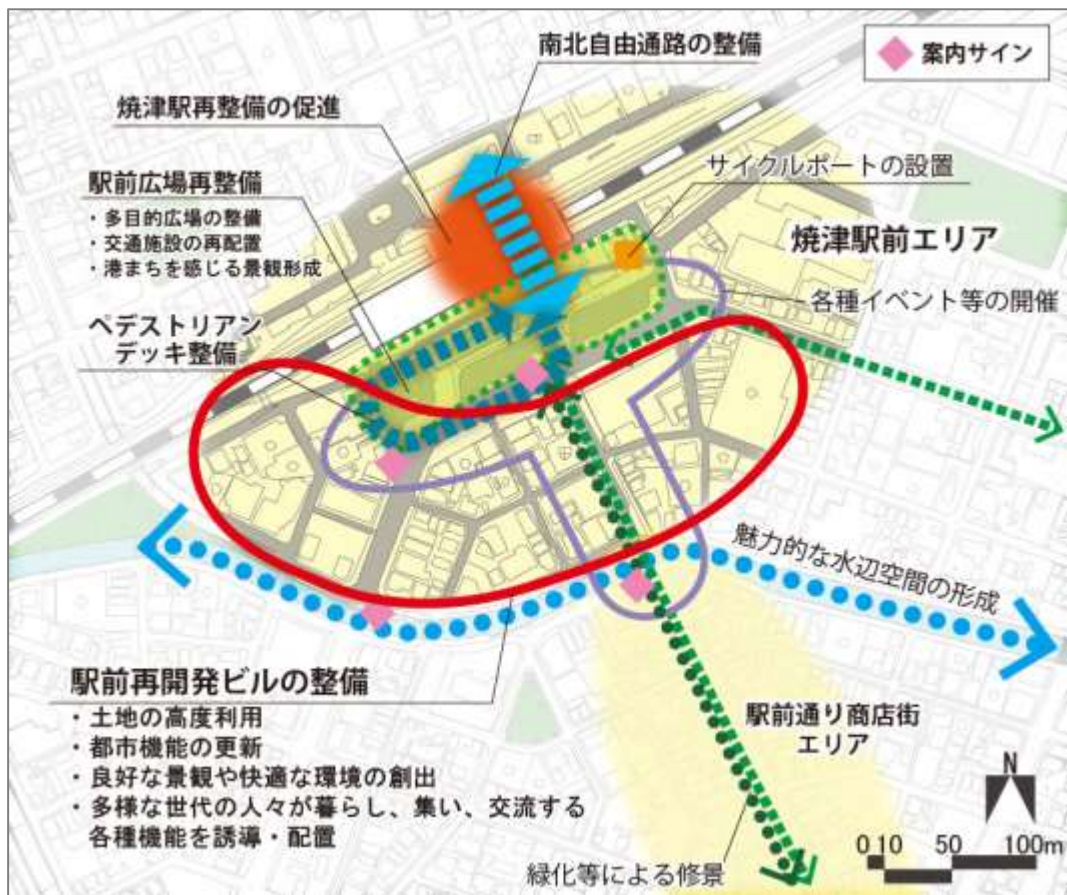
市の玄関口に相応しいシンボル性と利便性を兼ね備えるとともに、多様な人々が暮らし、集い、交流し、にぎわいを地区全体に広げていくエリア

- ・土地の高度利用や都市機能の更新、及び良好な景観や快適な環境の創出等による安全で快適な都市環境づくりにより、定住人口の増加とにぎわいの創出を図るため、JR焼津駅の南口広場に面する街区の市街地再開発事業を促進するとともに、老朽化した建築物が密集するその他の街区においても、市街地再開発事業を含む共同化等を進めます。
- ・持続可能で活力あふれるエリアとするため、子どもから高齢者まで多様な世代の人々が暮らし、集い、交流することのできる各種機能を誘導・配置します。
- ・市の玄関口に相応しいシンボル性と利便性の向上等を図るため、交通事業者等との協議を進め、駅舎の建替えや南北自由通路の整備、駅前広場の再整備、及び駅舎と周辺街区を結ぶペDESTリアンデッキ等の実現を図ります。
- ・自転車及び自動車等のアクセス機能の充実を図り、駅周辺への利便性を高めるとともに、案内サインの整備やコミュニティサイクル、自動運転EVバスの導入等、地区全体の施策と連携しながら、来訪者等の移動のしやすさを高め、中心市街地や焼津漁港を含めた各エリアへの回遊性の向上と誘導を図ります。
- ・市の玄関口に相応しい美しく潤いのある景観形成を図るため、高木植栽や壁面緑化、及びハンギングバスケット等による緑化を進めます。
- ・既存の小石川の水辺空間をはじめ、駅前広場や「シーがるぶりっじ」、及び駅前コミュニティ道路を活用した各種イベント開催等のソフト施策を展開し、にぎわいの創出を図ります。

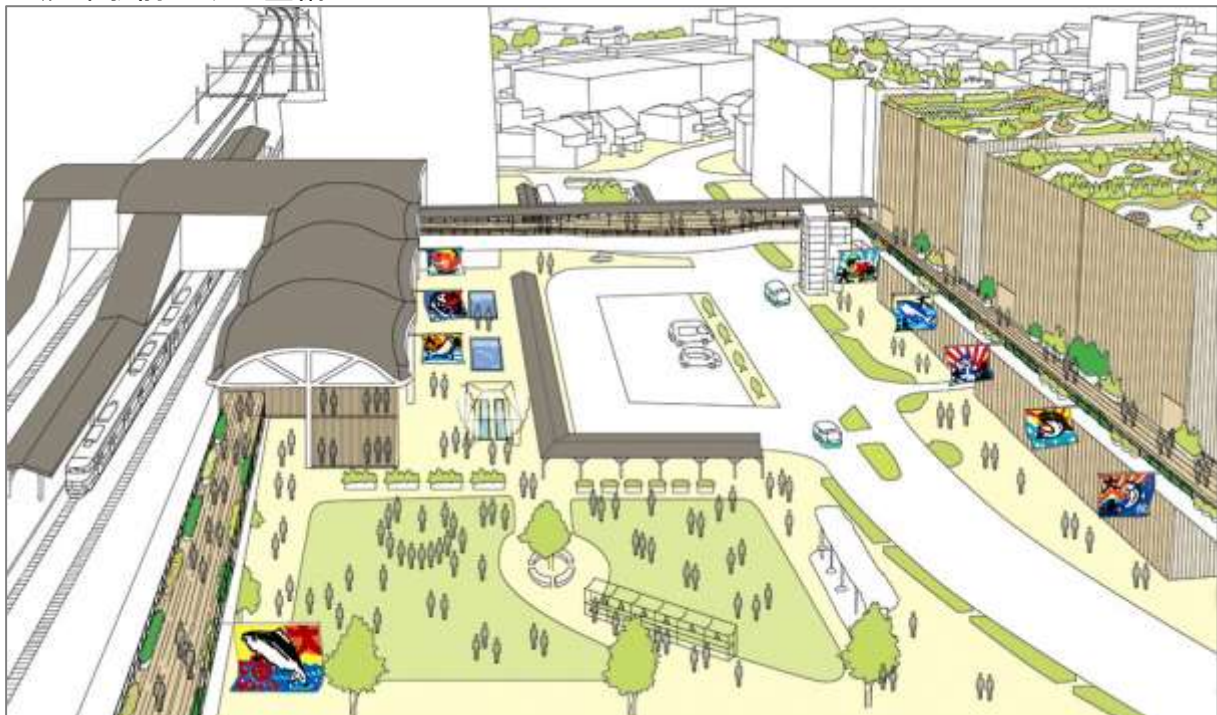
(2) 整備活用施策

- ・焼津駅周辺街区における市街地再開発・共同化事業等の促進
- ・JR焼津駅における駅舎と南北自由通路、駅前広場及びペDESTリアンデッキ等の整備
- ・高木植栽や壁面緑化、及びハンギングバスケット等による緑化の推進
- ・自転車・自動車等のアクセス機能の充実と環境に配慮した新たな交通手段の導入
- ・既存の水辺空間、駅前広場、「シーがるぶりっじ」及びコミュニティ道路を活用した各種イベント開催によるにぎわい創出

<焼津駅前エリア整備方針図>



<焼津駅前エリア整備イメージ>



(3) コア施設の整備活用構想

コア施設	駅前再開発ビル
------	---------

<整備概要（イメージ）>

- ・ 駅南口広場に面する街区において、市街地再開発事業等による共同化を図ります。
- ・ 駅利用者や居住者等、誰もがスムーズに移動できるよう、駅舎や駅周辺の複合施設をペDESTリアンデッキで接続します。
- ・ 本地区に求められる商業・業務や福祉、医療及び教育等の各種機能を配置するとともに、定住人口の増加を図るため、交通利便性の良さを活かした居住機能を配置します。
- ・ 駅周辺の利便性向上のため、駅前再開発ビルの整備に合わせて、自動車や自転車等のアクセス機能を確保します。



他都市の事例
(宮城県名取駅前地区第一種市街地再開発事業完成イメージ)

駅前通り商店街エリア

(1) 整備活用方針

既存ストックの活用による商店街の振興と
子育て支援の拠点であるターントクルこども館の活用により、
子どもから高齢者まで、多様な人々の交流とにぎわいの創出を目指すエリア

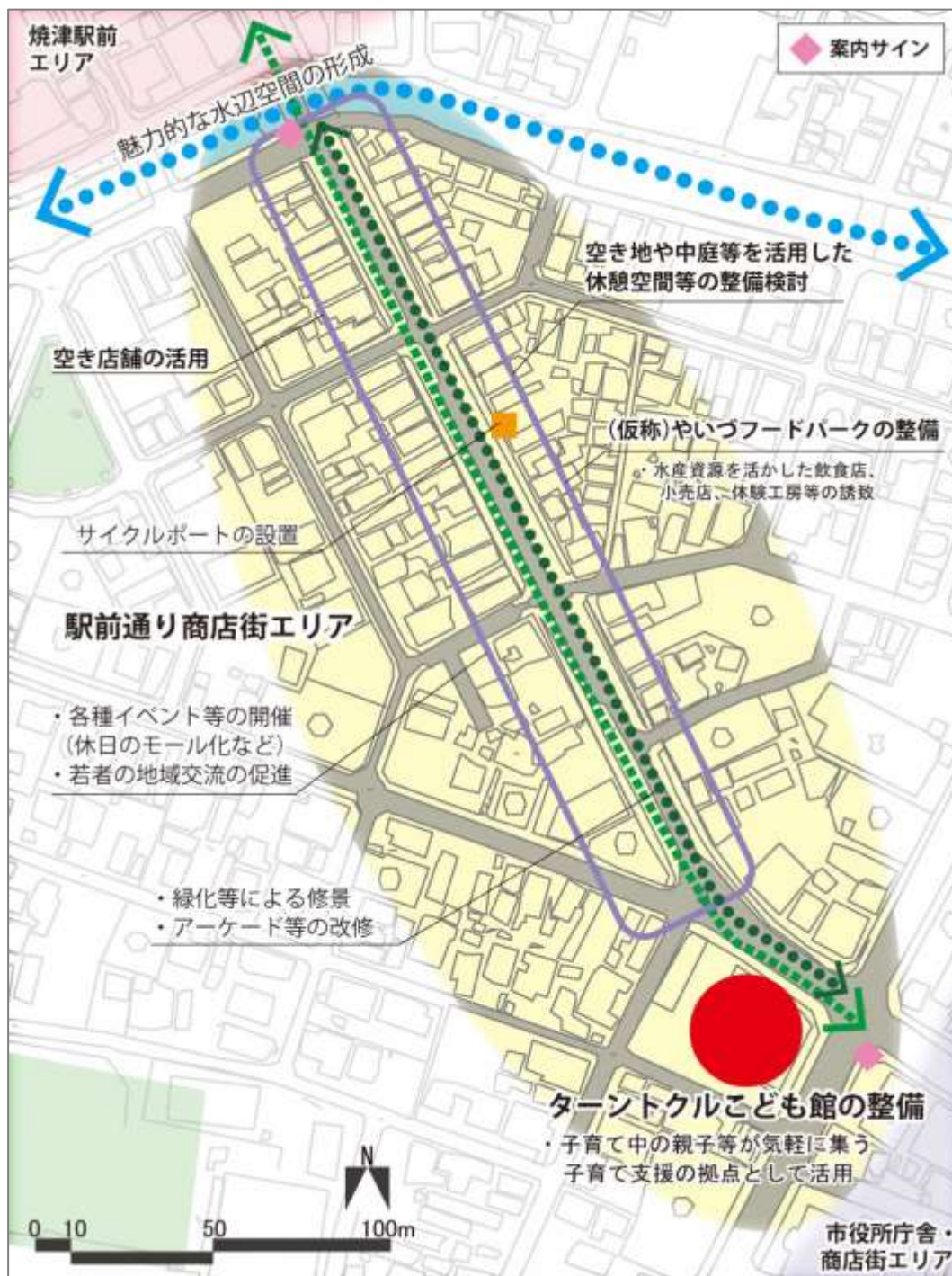
- ・各種空き店舗活用事業等による空き店舗の有効活用を促進し、商店街の活性化を図ります。
- ・子育て支援の拠点施設として、また、地区内の多世代交流とにぎわい創出の核となる施設として、こどもの「集い・遊び・学び」の場となるターントクルこども館を整備するとともに、子育て支援への大学等との連携により、若者の地域交流を促進し、商店街の活性化を図ります。
- ・商店街の空き店舗等の既存ストック等を活用し、焼津の水産資源等を活かした飲食店や小売店、体験工房等を誘致し、食をテーマにした「(仮称) やいづフードパーク」として誘客を図ります。
- ・老朽化したアーケードの改修や商店街として統一感のある修景等を進め、まち並み景観の向上を図ります。
- ・子どもから高齢者まで、誰もが快適に過ごせるように、店先へのベンチ等の設置や空き地を活用したポケットパーク等の環境整備を進めます。
- ・コミュニティ道路である駅前通り（(主)焼津榛原線）の休日のモール化等により、イベント等に効果的に活用し、にぎわいの創出を図ります。
- ・(主)焼津榛原線沿道の植栽や壁面緑化、ハンギングバスケット等による緑化を推進し、潤いあるまち並み景観を創出します。

(2) 整備活用施策

- ・子育て支援の拠点である「ターントクルこども館」の整備
- ・リノベーション等による空き店舗の活用
- ・「(仮称) やいづフードパーク」として、焼津ならではの「食」を活かした飲食店、小売店、体験工房等の立地誘導
- ・歩道へのベンチの設置や空き地を活用したポケットパーク等の休憩施設の整備
- ・沿道住民等の協働による、花や植栽、壁面緑化、ハンギングバスケット等を用いた修景緑化の推進
- ・既存のアーケード等の改修による景観改善

- ・空き店舗活用事業等の推進による空き店舗解消と商店街活性化の促進
- ・休日のモール化等による道路空間の効果的な活用
- ・各種イベントの開催によるにぎわい創出
- ・大学やNPO等と連携した子育て支援や若者の地域交流の促進

<駅前通り商店街エリア整備方針図>



<駅前通り商店街エリア整備イメージ>



(3) コア施設の整備活用構想

コア施設	ターントクルこども館
------	------------

<整備概要>

- ・「集い・遊び」の機能に加え、読書や体験などの成長段階に応じた「学び」の機能を有する複合的な機能を配置した施設を整備します。
- ・子どもが遊べる施設として、おもちゃと遊びの体験型ミュージアム、地域資源を活かした多世代交流施設を整備します。
- ・「こどもの読書のきっかけづくり」にフォーカスしたこども図書館を整備し、活用します。
- ・飲食スペースや屋外広場などを整備します。



こども館のイメージパース

市役所庁舎・商店街エリア

(1) 整備活用方針

行政機能や商店が集積する地域特性を活かし、
市民の交流と生活の質を高めるエリア

- ・ユニバーサルデザインや環境等に配慮した市役所新庁舎を整備し、行政機能や防災拠点としての機能の強化を図るとともに、市民と行政の協働の拠点とします。また、イベントなどに活用できる市民スペースを設置し、周辺へのにぎわいの創出を図ります。
- ・昭和通りや神武通り等の既存商店街は、地域住民が集う生活の場として商業機能を維持するとともに、商店街としてのまち並み景観の向上を図ります。
- ・市役所アトレ庁舎は、市役所新庁舎整備後の利活用方法を検討するとともに、子育て相談等の機能や公民館機能の充実を図ります。
- ・市役所新庁舎周辺の道路等では、沿道緑化による修景を推進し、潤いある景観形成を図ります。
- ・商店街等における各種イベントの開催により、にぎわいを創出します。

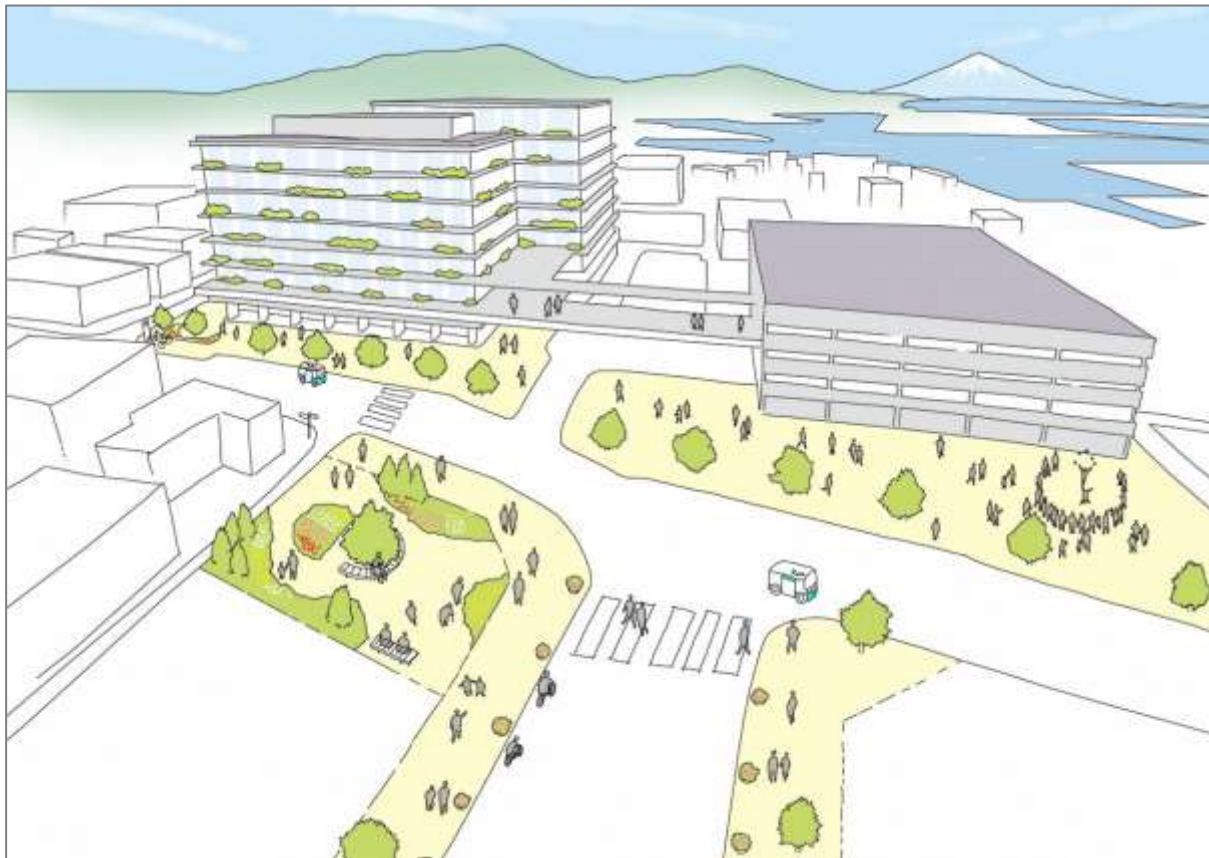
(2) 整備活用施策

- ・市役所新庁舎の整備による行政機能と防災拠点としての機能の強化及び市民協働機能の充実
- ・市役所新庁舎への市民スペースの設置による周辺へのにぎわいの創出
- ・アトレ焼津における子育て相談機能等の充実
- ・市役所新庁舎周辺の道路沿道の緑化推進
- ・七夕祭り、じんむ市等、各種イベントの開催等による商店街のにぎわいの創出

<市役所庁舎・商店街エリア整備方針図>



<市役所庁舎・商店街エリア整備イメージ>



(3) コア施設の整備活用構想

コア施設	焼津市役所新庁舎
------	----------

<整備概要>

- ・行政機能を集約して機能性・効率性を高めるとともに、防災や市民協働の拠点として整備します。
- ・敷地北西側に新庁舎を南東側に立体駐車場を整備します。
- ・新庁舎は、地上8階建てで、低層階に市民が利用する頻度の高い機能を、中層階には事務室、高層階には議会などの特別な機能を配置します。
- ・イベントスペースや市民が利用できる休憩スペース等を設けます。
- ・回遊性の向上を図るため、敷地北側の船玉通り（(主)焼津榛原線）との動線を確保します。



新庁舎のイメージ（焼津市新庁舎基本設計）

コア施設	アトレ焼津
------	-------

<整備概要>

- ・市役所アトレ庁舎にある行政機能の大半が新庁舎に移転することから、アトレ焼津の機能を再編し、既存施設を活用しつつ、子育て相談機能等を充実させます。
- ・3階の焼津公民館は、市民活動の拠点として、子どもから高齢者まで誰もが憩い集うことができ、レクリエーションを楽しむことができる環境づくりに努めます。

内港エリア

(1) 整備活用方針

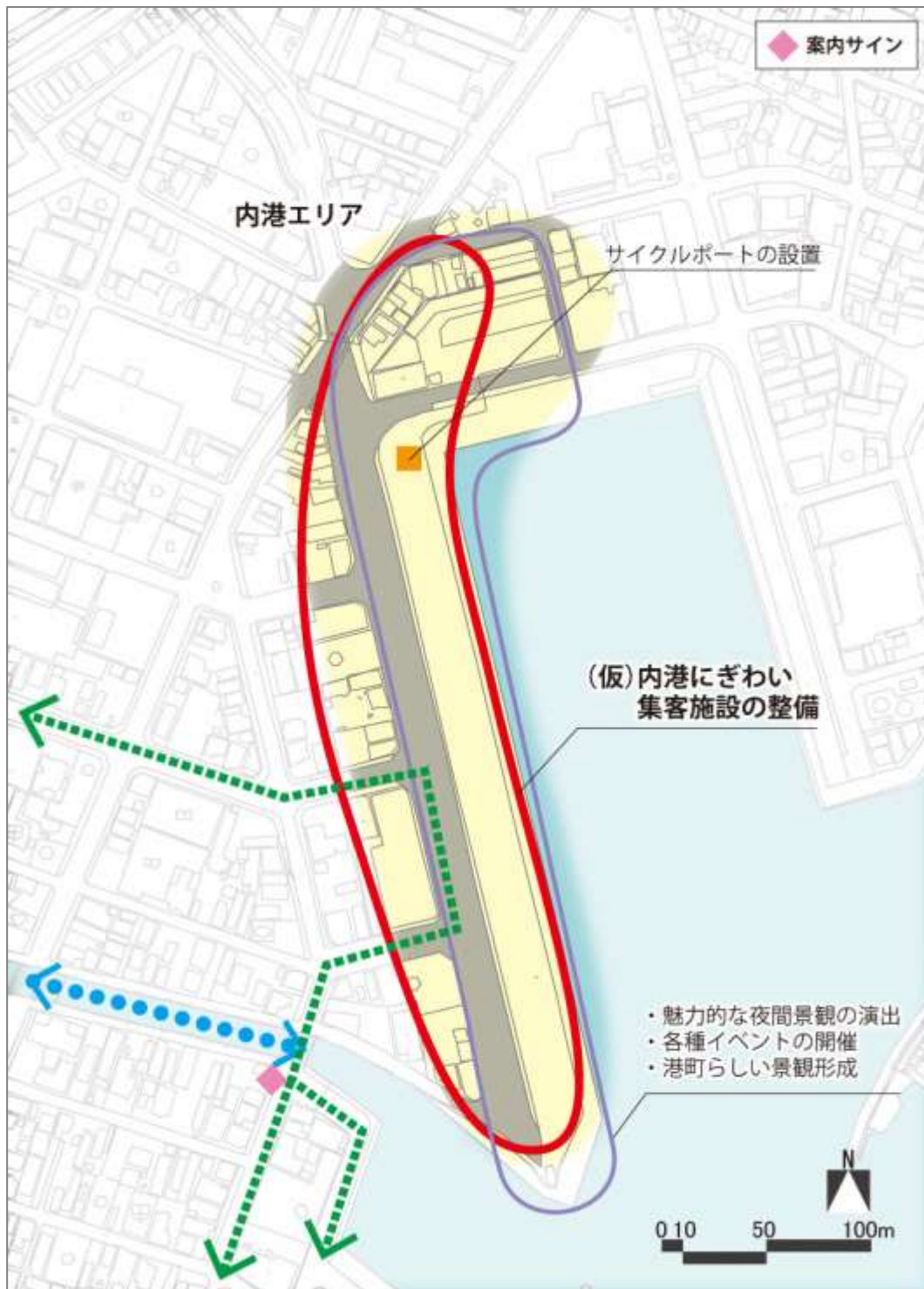
港町としての風情ある景観や水産資源等を活かし、
水産業の振興とともに観光交流を活性化させるエリア

- ・第1船渠に隣接する内港エリアには、焼津漁業協同組合が所有する焼津漁業資料館をはじめ、漁業・水産業関連施設があり、これらを一体的な観光交流施設（(仮称)内港にぎわい集客施設）として位置づけ、リノベーション等による再整備を促進し、観光客等の誘致によるまちの活性化を図ります。
- ・第1船渠西岸壁の背後地（旧魚市場跡地）は、岸壁や泊地の通常時の利用はもとより、荒天時の避難港としての利用を優先しつつ、イベント等の開催に活用し、観光交流の促進を図ります。
- ・地元事業者や漁業関係者等との協働により、停泊中の漁船や周辺商店への大漁旗の掲出等を誘導し、港町らしい景観形成を進めます。
- ・港や漁船等のライトアップをはじめ、計画的な街灯の配置等による魅力的な夜間景観を演出し、イメージの向上による観光交流の促進を図ります。
- ・焼津みなとまつり等、既存の各種イベントを継続的に開催し、市内外からの集客や水産業の振興を図ります。

(2) 整備活用施策

- ・既存施設のリノベーションによる飲食・物販・宿泊施設等への商業的活用の促進
- ・漁港の雰囲気をもつ魅力的な夜間景観の演出
- ・岸壁背後地（旧魚市場跡地）のイベントの開催等による有効利用
- ・焼津みなとまつり等、各種イベントの開催によるにぎわい創出
- ・地元事業者や漁業関係者等との協働等による大漁旗の掲出等、港町らしい景観形成の推進

<内港エリア整備方針図>



<内港エリア整備イメージ>



(3) コア施設の整備活用構想

コア施設	(仮称) 内港にぎわい集客施設
------	-----------------

<整備概要 (イメージ) >

- ・既存施設を一体的な観光交流施設として位置づけ、リノベーション等により、飲食・物販・宿泊施設等への活用を促進します。
- ・岸壁背後地のオープンスペースは、漁船利用等に配慮しながら、多くの人が集い、憩い、交流できる環境整備を行います。

浜通り周辺エリア

(1) 整備活用方針

焼津の水産業発祥の地としての歴史・文化と
それを伝える風情ある町並み景観を守り、活かし、
交流人口の拡大を図るエリア

- ・焼津市景観計画及び焼津市景観まちづくり条例により、古き時代の漁師町や水産加工業の歴史や文化が感じられるまち並み景観の保全と向上を図ります。
- ・浜通り（(主)焼津榛原線）等の景観に配慮した道路修景と堀川（黒石川雨水幹線）沿いへの遊歩道の整備など、公共空間の整備改善を進め、本エリア内の回遊性を高めるとともに、焼津駅と新港エリアを繋ぐ動線を明確化し、来訪者を的確に誘導します。
- ・浜通りや堀川沿い等では、住宅等の周囲の緑化を促進するとともに、空き地を活用した休息所等の整備を進めます。
- ・エリア内の空き家を浜通りの歴史文化の情報発信拠点や体験施設等として活用するとともに、移住者や事業者等が円滑に利用できる仕組みを構築し、定住・交流人口の拡大を図ります。
- ・浜通り特有の歴史的価値のある服部家（焼津水産翁の一人である服部安次郎の生家）を交流拠点として保全・改修し、市民団体や地元住民及び行政等の協働により、浜通りの歴史・文化を後世に継承します。
- ・地区内に残る寺社仏閣、庚申像、小泉八雲の滞在の家跡、波除地藏等の歴史的文化的な資源を保全し、後世に継承しつつ、景観的向上を図ります。
- ・市民団体や地元住民及び行政等の協働により、歴史的価値のある建築物やまち並み等を活かしたイベント等を開催し、交流人口の拡大を図ります。

(2) 整備活用施策

- ・焼津市景観計画及び焼津市景観まちづくり条例による民間建築物の形態意匠の誘導
- ・堀川（黒石川雨水幹線）沿いの遊歩道の整備
- ・浜通り等の道路の景観に配慮した舗装改善や防護柵や橋梁高欄の色彩の変更等の公共施設の改修
- ・服部家住宅の保存と交流拠点としての活用

<浜通り周辺エリア整備方針図>



<浜通り周辺エリア整備イメージ>



(3) コア施設の整備活用構想

コア施設	城之腰の歴史的なまち並み
------	--------------

<整備概要（イメージ）>

- ・服部家は、建築物の構造、外観や内観の意匠、調度品等について、特徴を活かして保全しつつ、利活用や安全性向上のために必要な整備改修を行います。
- ・服部家やぬかや斎藤商店、マルハチ村松等の古き時代の漁師町や水産加工業の歴史と文化が感じられる建築物は、一体的に保全し、活用を促進します。
- ・服部家等の整備にあたっては、地域住民や市民団体等と連携し、地域コミュニティの向上や観光交流人口の増加に寄与するよう配慮します。



服部家が保存活用されたイメージ
(服部家保存活用計画)

コア施設	船元小路の歴史的なまち並み
------	---------------

<整備概要（イメージ）>

- ・船元小路では、建築物の形態意匠や色彩の誘導や修景等により、水産業の歴史と文化が感じられるまち並み景観の保全と向上を図り、後世に継承します。



新港エリア

(1) 整備活用方針

富士山や駿河湾の眺望をはじめ、港や海辺の魅力、さらに既存施設や広大な空間等の本市特有の海の資源を活かし、新たなおもてなし拠点として、市民の憩いや観光交流の促進を図るエリア

- ・「開かれた漁港」として市民の憩いの場の創出を目指して、親水広場ふいしゅーなをはじめ、アクアスやいづ等を整備してきており、これらの既存施設と周辺の未利用地を含むエリアを「(仮) やいづベイサイドパーク」として位置づけ、港町焼津ならではの海の資源を活用した多くの市民や観光客が訪れ、交流する施設整備を促進します。
- ・民間活力の活用等により、富士山や伊豆半島、駿河湾等の眺望を楽しめる展望タワーや飲食店、物販店舗、産業展示館、及びスポーツ広場等の整備を促進し、レクリエーションや観光交流によるにぎわいの創出を図ります。
- ・駿河湾越しの富士山の眺望や大崩海岸等の荒々しい景観等を活かした遊覧船事業を促進します。
- ・自動車利用者が徒歩や自転車、公共交通等によって区内を回遊することを促進するため、新たな駐車スペースを確保します。
- ・自動車利用者等が区内を周遊する起点となるよう、観光案内機能の強化等を図ります。
- ・水産資源や広大な「(仮) やいづベイサイドパーク」を活用した各種イベントの開催により、市民や観光客のにぎわい創出を図ります。

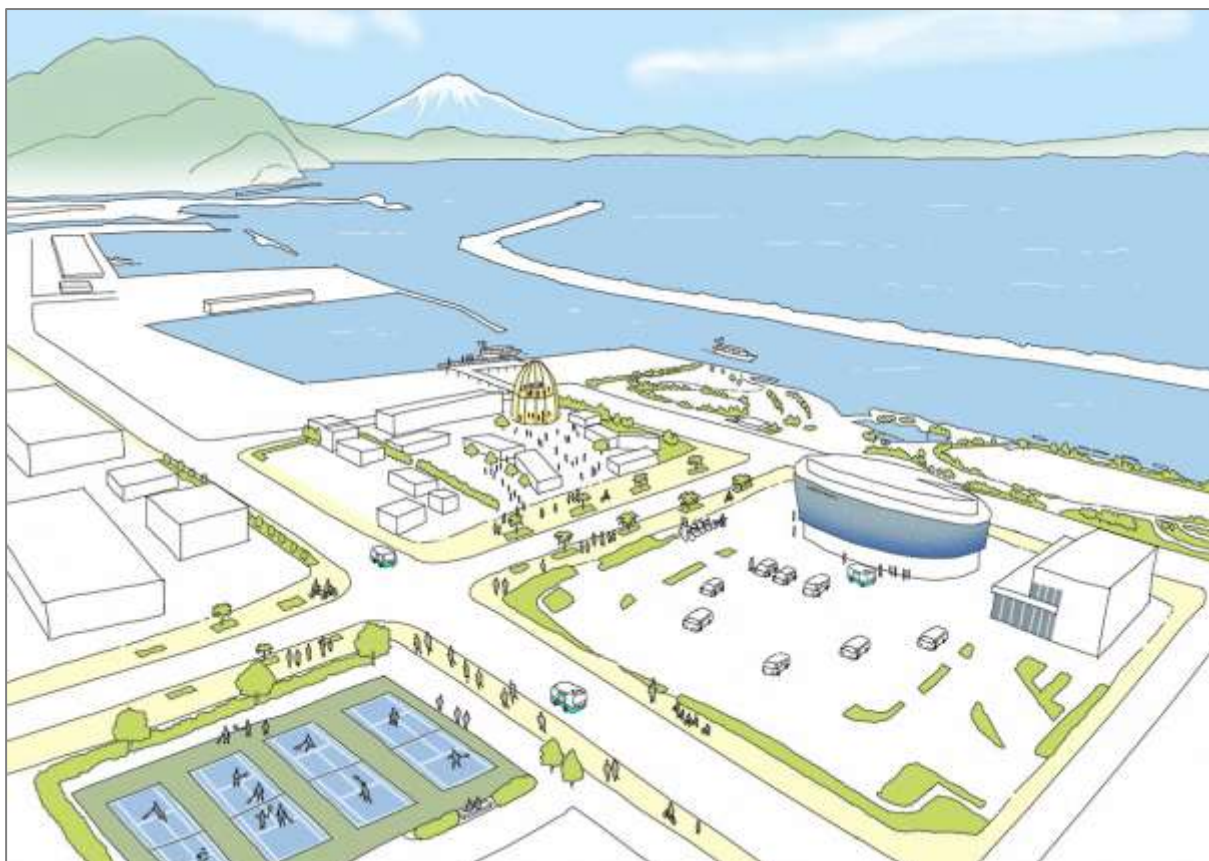
(2) 整備活用施策

- ・民間活力を活用した遊覧船事業、展望タワーや飲食店、産業展示館、スポーツ広場等の集客施設の整備促進
- ・自動車利用者が区内を徒歩、自転車、公共交通等で回遊するための自家用車駐車スペースの整備
- ・区内を周遊するための観光案内機能の強化
- ・親水広場ふいしゅーな、アクアスやいづ、うみえ〜る焼津等、既存施設の利活用促進
- ・水産資源や広大な「(仮) やいづベイサイドパーク」を活用した各種イベントの開催

<新港エリア整備方針図>



<新港エリア整備イメージ>



(3) コア施設の整備活用構想

コア施設	(仮称) やいづベイサイドパーク
------	------------------

<整備概要 (イメージ) >

- ・新港鰯ヶ島地区に立地する既存施設と未利用地に今後整備する施設の総称を「(仮称) やいづベイサイドパーク」とします。
- ・「(仮称) やいづベイサイドパーク」には、テニスやバスケットボール、スケートボード等ができるスポーツ広場、富士山や伊豆半島、駿河湾等の眺望を活かした展望タワーや商業施設、遊覧船の発着所等を整備するほか、静岡県が整備した水産技術研究所展示室(うみしる)や親水広場ふいしゅーな等の既存施設を活用し、市内外からの観光交流を促進します。



スケートボード場 (神栖総合公園)

出典: 神栖市 HP



バスケットボールコート of イメージ

3) 周遊ネットワークの整備活用施策

将来イメージ実現のための基本方針に基づき、本地区内の周遊ネットワークについては、次の整備活用施策を推進します。

① エリア間を結ぶ質の高い道路空間の創出等

- ・各エリアを結ぶ周遊道路ネットワークに設定した道路については、来訪者を的確に目的エリアに誘導するとともに、魅力的な歩行空間となるよう、歩道幅員の確保や道路の美装化、及び防護柵の色彩等の改善を図ります。



② 河川・水路沿いの遊歩道等の整備

- ・周遊道路ネットワークと連絡し、周遊性の向上を図る周遊河川ネットワークに設定した小石川沿いと堀川（黒石川雨水幹線）沿いの道路については、連続して歩けるよう、未整備区間の遊歩道整備を進めるとともに、既存区間においては舗装改修等により良好な歩行空間の創出を図ります。



③ ベンチの設置や空き地等を活用した休息所の整備

- ・ゆっくり気軽に地区内の周遊が楽しめるように、周遊ネットワーク沿いに民有地や空き地、小規模未利用地などを活用したベンチやポケットパークなどの休憩施設の整備を進めます。



出典：国立市 HP

④ 周遊を促す案内サイン等の整備

- ・来訪者を的確に目的地に誘導するための案内サインや地区の歴史文化や自然環境等に関する情報提供のための案内板等を整備します。
- ・これらのサインは、統一されたデザインにより整備するとともに、多言語表記も行います。



⑤ 周遊ネットワーク沿いの緑化の推進

- ・設定した周遊ネットワーク等においては、潤いあ

ふれる快適な歩行者空間を創出するため、沿道の緑化を推進します。

- ・沿道緑化の手法は、道路敷への中高木植栽やフラワーポット等の配置、さらには沿道住民の協力による敷地内緑化等、地区の特性にあわせて多様な手法により緑化を推進します。



⑥ コミュニティサイクルシステムの導入

- ・住民や観光客などが、地区内で自由に自転車を乗り降りできるコミュニティサイクルシステムを導入し、各エリアにコミュニティサイクルポートを設置します。



出典：横浜市 HP

⑦ 自動運転技術を活用した各エリアを結ぶ公共交通の導入

- ・地区内の各エリアを繋ぐ公共交通システムとして、自動運転 EV バスの導入について研究を進め、その実現に努めます。



IV 本構想の実現に向けて

本構想の実現に向けた取組についての考え方を以下に示します。これらの考え方に基づき、にぎわいと活力に満ちあふれたまちづくりを進めていきます。

(1) 公民連携等の推進

近年では、厳しい財政状況の中、多様化、高度化する市民や観光交流客のニーズに適切に対応することが求められています。最少の経費で効率的・効果的に施設整備等を進めるためには、民間事業者等の資金、経営能力、技術的能力等を活用していくことが重要です。

そこで、本地区の公共施設の整備や管理等にあたっては、PFI や指定管理者制度等の中から適切な公民連携の手法を検討し、最大限活用していきます。また、構想に合致する民間主導による整備・活用も促進し、行政と民間が連携・協働して本構想の実現を図っていきます。



PFI 事業による整備事例①
(静岡市清水文化会館マリナート)
出典：マリナート HP



PFI 事業による整備事例②
(道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」)
出典：函南町 HP

(2) エリアマネジメントの推進

我が国のまちづくりは、新規開発や市街地の拡大を推し進める時代から、既成市街地内で、既存の施設や資源等を効果的に活用しながら、地域特性を重視したまちづくりを進める時代に変化しています。このような時代の変化に対応するためには、行政主導の画一的なまちづくりではなく、地域の地権者、事業者、住民等が主体的に連携し、良好な環境を維持したり、地域の価値を高めるような取組が求められます。

本地区内でも、すでに各種団体や事業者等の主体的な取組が行われていますが、本構想の実現のためには、さらに自治会や地権者、事業者、各種団体、住民等の多様な人々が協働・連携し、地域の魅力を高めることが重要です。

そこで、本構想の実現のため、地区内で活動する各種団体等が協力するためのエリアマネジメント組織の立ち上げ支援等を検討していきます。



I Love しずおか協議会（大型店や事業所、商店会、行政等が参画）による
中心市街地の清掃活動



一般社団法人横浜みなとみらい21
(地区の土地・建物所有者、施設管理運営者等により構成)の設立目的
出典：みなとみらいエリアマネジメント HP

(3) 地域ブランディング・情報発信

本地区には、日本有数の水揚げ高を誇る焼津漁港があり、水産都市「焼津」として抜群の知名度を誇っているほか、魚介類や水産加工品等の食をはじめ、魚河岸シャツなどの地域独自の製品、水産業の歴史や文化が感じられるまち並み、富士山や伊豆半島、駿河湾が一望できる眺望景観等、地域独自の資源があります。

地域外から人々を呼び込み、観光交流の活性化や定住を促すためには、本地区が持つ特性や魅力を最大限活かし、地区のイメージを向上させ、人の心に訴えるような地域のブランド化が重要です。そこで、親しみやすいキャッチフレーズやロゴマーク等の作成と普及啓発等を図るとともに、本地区ならではの体験型観光メニューの開発、人を惹きつけるイベントの開催等を市民や事業者、各種団体等と連携・協力して取り組んでいきます。

また、地区のブランディングに加え、有益な情報を必要な人に即時的に発信することも重要です。役立つ情報を継続的に効果的に発信することで、地区への注目度が上昇し、魅力が向上することから、紙媒体のほか、ホームページやSNS、動画共有サイト等、様々な手段から目的に合った方法を選択し、効果的に活用していきます。

さらに、訪日外国人観光客をターゲットにした情報発信も重要であることから、発信する情報の多言語化等にも取り組んでいきます。



ロゴマークの例（新潟港）
出典：新潟市 HP



ロゴマークの例（神戸市）
出典：神戸市 HP



三重県情報発信ポータルサイト
出典：三重県